

1.3 帝人デュポンフィルム

米国デュポン社が1998年に英国ICI社のポリエステルフィルム事業を買収し、翌99年に帝人との事業統合に合意、2000年1月に「帝人デュポンフィルム」を設立した。同社は、日本のほかに海外5ヵ国に合弁会社を設立し、グローバルな事業展開を進めている。生産能力は、世界トータルで現在年産27万6,000トン（国内8万1,000トン、海外19万5,000トン）と見られる。生産能力は、東レに次いで世界第2位である。生産拠点は、国内では宇都宮事業所（栃木県宇都宮市）と岐阜事業所（岐阜県安八郡）の2ヵ所、海外では米国、英国、ルクセンブルク、中国、インドネシアの5ヵ国に工場を有している。

同社は、2008年終盤から世界に広がった同時不況による収益減から構造改革に取り組み、2009年にルクセンブルクの工場の一部生産ラインを休止し、米国では同年2月にオハイオ州のサークルビル工場、翌10年末にサウスカロライナ州のフローレンス工場の2工場を閉鎖した。この工場閉鎖に伴い、米国におけるポリエステルフィルムの生産はバージニア州ホープウェル工場に集約した。この工場は、設備能力と生産性がエレクトロニクス、メディカル、工業の各用途、および太陽電池などのグリーンテクノロジー用途の開発・生産に適していることから、これらを重点市場として投資を集中し、業界の構造変化に対応して行くとしている。

一方、同社は、PENフィルムの厚物を用いる情報エレクトロニクスやエネルギー分野などの工業用途と、PETフィルムの厚物を用いる太陽電池用バックライトをそれぞれ重点戦略市場と位置付け、国内の厚物フィルム増産のために2010年4月、宇都宮事業所のフィルム製膜ラインの1つを厚物フィルム製膜ラインに転換した。この生産ラインはPETフィルムとPENフィルムの併産が可能で、フィルムの安定供給により事業の拡大を目指している。また2013年以降、日本を中心に年間1万5,000～2万トン規模の最新の厚物ラインを増設する計画を立てている。

またフィルム市場の成長が著しい中国では、広東省佛山市の合弁会社「DuPont Hongji Films Foshan」にPETフィルムの厚物・薄物各1ラインを設置して、生産能力を年間5万トンから7万7,000トンに拡大する。厚物フィルムは、中国外の生産拠点から遊休設備を移設し、太陽電池用バックライト用途を中心に差別化市場に向けた供給を拡大する。また薄物フィルムについては、DFRやFPD用途を中心に設備を新設する。厚物用ラインは2012年後半、薄物用ラインは2013年中に稼働する。更に2013年以降、中国と東南アジアに新たな生産拠点を設置する計画もある。帝人デュポンフィルムは、アジア地域で韓国や中国のフィルムメーカーと競合が激しくなる中、積極的な投資を行い、中国を中心に差別化市場におけるリーディングカンパニーを目指している。